

戦争、基地、平和。

古堅中学校 三年 三組 仲吉 あゆみ

私は学校で、読谷での戦争について書かれ

た本を読みました。その本には、学校では教

えてもらっていない事もくわしくのべていて、

戦争がどんなものだったのかがうかんできま

しました。

アメリカ軍が上陸した1945年、当初は

読谷村の山部隊が陣地、砲座を捨て、南部へ

移動をはじめた。わずかな兵力しか残っておら

ずに簡単に上陸されてしまったことがはいま

りなんだと思います。

戦争をはじめた時、人々はいろいろなか

マや壕に避難していて、実際につかわれてい

たがマや壕がたくさんのこつています。本に

のつていたがマの中の写真には、当時避難し

てきた人たちのお椀、やかん、錆びた鎌の刃、

そして七くなつた人たちの骨がうつていま

した。それを見て、私は戦争が本当におこっ

た悲しいできごとだということをあらためて

感じました。

今、私が普通に生活している沖縄で戦争が起こり、たくさんの人たちが七くなつてしまつたこと、戦争がどれだけ大変な悲しいできごとだったのか、沖縄について多々の人に分かつてほしいです。それは、テレビでニュースをみていると、『沖縄の基地についてどう思うか』というインタビューを本土の人たちに質問していました。すると、ほとんどの方は「よく分からない。」「あまり関心がな

い。」「なぜ『基地がいらぬ』というのかが分からない。」「など、沖縄のことをわかつていない人が多く、基地のこともどんな理由でいらぬ』といわれといわれしているのかも知られていない。」「たからです。」

読谷にも米軍基地があり、それも小学校のすぐとなりです。でも危険な訓練などはしていません。いぬいようなのでまだ良い方だと思いますが、空から飛んでいる軍の飛行機やヘリの音は、家にいる時などにとってもうるさくて気になつ

てしまします。

戦争が終わり、昔の沖縄よりはたしかに平和になったとは思いますが、私は基地の問題が解決するまでは『沖縄は平和だ』といいきることはできないと思います。

読谷村の運動場で行われた県民大会にも、何万人という人が集まり、平和、基地について考えている人がこんなにいるんだとびっくりしました。中には本土からきた人たちも何名かいたので、こんなふうに沖縄のことを考えてくれる人たちが増えてほしいです。

これから、戦争のこねさをつたえていき、二度と戦争がおきないようにし、そして基地問題について皆で考えていくことが大切だと思います。